

## 登場人物と観客が共犯関係を結ぶ“遊び場”を

狂言師・野村萬斎が『こうもり』を演出。11月の公演を前に今夏、数日の稽古を行った彼が語る、その構想や手応えとは。

『こうもり』でオペレッタ初演出に挑む野村萬斎。日本語台本も執筆し、大胆なアレンジを行った。もともとはヨーロッパの大都市近郊の温泉地の物語だが、今回は舞台を日本に置き換えての上演となる。

「僕自身、オペレッタについては色々勉強させていただいているところですが、同じように馴染みのない方が初めて観た時、親近感を持っていただけるような趣向をと考えました。登場人物の名前はややこしくなるので変えませんが、1幕の銀行家のアイゼンシュタインの館は質屋に設定し、オルロフスキー公爵の夜会が行われる2幕は鹿鳴館のようなイメージ。コンサートホールでの上演になることや予算上の理由もあって豪華な美術を作るわけにはいかない分、演出を頑張っていますよ」

嘶家の桂米團治が、通常の『こうもり』でも俳優が演じることの多いフロッシュ役を務めるほか、狂言回しとして全編を通じて場面を展開させていくのも、このプロダクションの特長。舞台に対して彼が入れるツッコミはそのまま、萬斎自身の作品へのツッコミだろうか？

「まさしくそうです。同じ舞台上だけれども、メインの舞台から離れたところに弁士のようにいて、リアクションをしながらお客さんをリードするわけですね。ですから米團治さんには頑張っていたかなければなりませんし、彼も非常に張り切ってくれているようです。この作品では通常、歌手がかなり芝居をするのですが、今回、長台詞は米團治さんに任せ、オペラ歌手の皆さんにはボンボンとテンポの良い会話からシチュエーションを浮かび上がらせてもらいます」

アイゼンシュタイン夫妻がそろって浮気に勤しもうとしたり、アイゼンシュタイン家の小間使いが女優になりすましたり、外国人のふりをした者同士が滑稽な会話をしたり……と、荒唐無稽なドタバタの末に「全てはシャンパンの泡のせい」と大団円を迎える喜歌劇『こうもり』。その全体をヨハン・シュトラウスII世の流麗な音楽が彩る。

「私が最近好んで使う言い方なのですが、喜劇は役者と観客が共犯関係を結ぶもの。登場人物の様子を目撃した観客は『あ、いけないんだー!』と言いながらも『やれやれ!!』と応援し

たくなっていくわけです。楽曲がこれだけ素敵だと、多少羽目を外してもきちんと本筋を取り戻すことができますから、うまく繋がればお客さんも乗りやすいのではないかという気がしています。そのための遊び場を、演出として準備していきたいですね。時事ネタなどによるくすぐりも随所に入れていきます」

そして、オペレッタといえやはり醍醐味は歌。普段、能狂言の世界にいる萬斎が、オペラ歌手の表現に感じていることは。

「狂言師にも通じるのですが、ただ綺麗に歌うことと、その場に最適な歌い方をすることは、やはり違いますよね。今回の出演者は皆さん、楽譜通りに歌うだけではなくリズムの取り方などが素晴らしくて、プラスアルファの部分がちやんとあるし、キャラがつけやすい方も多い印象です。ご本人のキャラと役柄が相手とのバランスの中で一番面白くマッチするようジャッジし、そのキャラクターと歌と歌声を舞台全体の中で機能させていくことが、私の役目。指揮者として音楽的に責任を持つ阪哲朗さんと、阿吽の呼吸で取り組んでいきたいですね」

取材・文：高橋彩子（演劇・舞踊ライター）



© 2/Faith Company

2023年5月2日 制作発表記者会見より 左から、幸田浩子、阪哲朗、野村萬斎、福井敬、藤木大地



© 2/Faith Company

2023年5月2日 制作発表記者会見より

11月25日(土) 14:00開演 コンサートホール 詳細はP09へ

指揮 阪哲朗

演出 野村萬斎

出演 アイゼンシュタイン:福井敬 ロザリンデ:森谷真理  
フランク:山下浩司 オルロフスキー公爵:藤木大地  
アルフレード:与儀巧 ファルケ博士:大西宇宙  
アデーレ:幸田浩子 プリント博士:晴雅彦  
フロッシュ:桂米團治 イーダ:佐藤寛子

合唱 二期会合唱団

管弦楽 ザ・オペラ・バンド



Ban Tetsuro



指揮

Nomura Mansai



演出

Fukui Kei



アイゼンシュタイン

Moriya Mari



ロザリンデ

Yamashita Koji



フランク

Fujiki Daichi



オルロフスキー公爵

Yogi Takumi



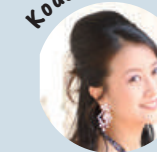
アルフレード

Onishi Takaoki



ファルケ博士

Koda Hiroko



アデーレ

Hare Masahiko



プリント博士

Katsura Yonedanji



フロッシュ

Sato Hiroko



イーダ